

1) *Orostachys minutus* (Komarov) A. Berger は中国吉林省と朝鮮北部を原産地として記載された矮性の種である。これまでに検討した標本のうち、朝鮮半島産は *O. spinosus*, 中国産は *O. malacophyllus* と *O. fimbriatus* の矮性個体であった。なお、朝鮮北部の冠帽山から記載された *O. filifer* (Nakai) Nakai と *O. kanboensis* Ohwi も *O. spinosus* あるいは *O. erubescens* の矮性個体に過ぎない。

2) *Orostachys cartilagineus* A. Boriss. は *O. spinosus*, *O. erubescens*, あるいはツメレンゲ *O. japonicus* に近い種で根生葉や茎葉の先端部が顕著に軟骨状になる。

3) アオノイワレンゲ (ゲンカイイワレンゲ) *O. malacophyllus* はたいへん変異の幅が大きい種であるが、大興安嶺には花序が花茎の半分以下で、花時にロゼットが消失する一型がある。これを地方亜種と認め、subsp. *Lioutchenngoi* と命名した。亜種名は採集者でもあり中国植物学に貢献した劉慎諤博士に因む。

4) *Orostachys thyrsoflorus* (Fisch.) A. Berger は *O. spinosus* から明瞭に区別されることを指摘し、アルタイ、天山山脈の標本産地を挙げた。

5) *Orostachys Chanetii* (Lév.) A. Berger が *O. fimbriatus* とは明らかに異なることを指摘した。

---

□畑中颯和：みどりの香り 青葉アルコールの秘密 (中公新書 875) 230 pp. 1988. 中央公論社、東京。¥600. 博物館にいと、近頃は森林浴とかフィトンチッドについての質問がよくある。私はこれらについては、どちらかという懐疑的な受け応えをしてきたのだが、この本で少しは実のある返事ができるようになった気がする。青葉やキュウリの青臭さは、炭素6個から成るアルコールやアルデヒドに基づく。著者が永年この物質の抽出、同定、合成にたずさわった成果の回顧と展望である。リノール酸から種々の代謝過程を経てこの物質が生成する機作の研究、それが植物の害虫防禦や個体間のコミュニケーションに使われる話、さらに動物では作れないこの物質が、昆虫の摂食活動に重要な役割をするばかりか、体内に蓄積されて社会生活で通信手段に使われたりするという話は、あらためて興味をそそられる。植物名には少々首をかしげるものがあるが、気にしなくてもよいだろう。フィトンチッドでよく言われるテルペン類については触れられていない。

(金井弘夫)

□広島県 (監修)：広島県文化百選 7 花と木編 217 pp. 1990. 中国新聞社、広島。¥1,700. 県民や市町村の推薦による名木、景勝地、群落など100件が1頁ずつカラーで示され、対面頁に解説がある。後代に残すべき文化を認識させるため、必要なことではあるが、文中にも各所に記されているとおり、踏み荒らしや採取で減少する心配もある。そちらの方の措置にも配慮してもらいたい。

(金井弘夫)